

かさま はっけん 笠間を再発見

リディスカバー カサマ
reDiscover Kasama!

だい かい
第4回
くり さいかい
栗と再会

グローバル採用の

笠間市広報スタッフ

ナターリアが笠間の魅力を
紹介します。

ぶん | ザグミョンノワ・ナターリア
お問い合わせ | 笠間市秘書課
(内線225)



栗ソフトクリームは最高!

笠間市は、栗を育てる土地が日本で一番広く、私がよく散歩する岩間地区もあちこちに栗畑があります。私の出身地で「クリ」と呼ばれるのは「セイヨウトチノキ」と言い、日本の栗とは葉も実も全く違います。日本の栗の実はハリネズミのようでかわいいです。

私の国で栗を食べてみたときは、「二度と食べない」と思うくらいひどい味でした。同じような経験をした友だちが何人もいます。しかし、笠間の焼き栗を食べて以来、9月から10月までの栗のシーズンを毎年楽しみにしています。私にとってこんなに甘くておいしい栗は珍しく、甘いものが大好きなので、新しい栗のデザートを見つけると、つい買ってしまいます。

3年前、笠間芸術の森公園で行われた「かさま新栗まつり」のときにお店の看板娘として参加しました。「いらっしやいませ〜」の文化に不慣れでしたが、笑顔で挨拶するだけでまつりの気分を作り出すのは良い経験でした。出店する人は誇りをもって自分の食品をPRし、お客さんは朝早くからそれぞれのお店の前に並んでいました。まつりの賑わいを思い出すと懐かしくなります。

私がお手伝いしていたお店では、焼き栗がのったピザを窯で焼いていました。珍しいメニューですが、お客さんがおいしそうに食べてくれてとても嬉しかったです。他のお店を覗いてみると、栗ご飯、デザート、お菓子などおいしそうなものがいっぱいでした。そして、初めて焼き栗を作る機械を見ましたが、できあがる時に水蒸気が勢いよくでて、すごく面白かったです。食べ物のほかに、コンサートや栗拾い体験、ゲームなどを楽しむ人が多かったです。

海外から来た友だちも、帰国前に栗のお土産を買っていきました。私も日本にきてその地域のおいしいものを食べるようになってからは、お土産なら地域の名物が一番だと思うようになりました。

皆さんも栗のストーリーを「#笠間市民ニュース」でぜひシェアしてください。

市のホームページでは
この記事を英語で
読めます。



WEB版(日本語・英語)▶

市の話題やニュースを
SNSでシェアしよう!



#笠間市民ニュースの詳細▶



本物の窯で焼く栗ピザ



コンサートも楽しみました



友だちも笠間の栗が好きになりました

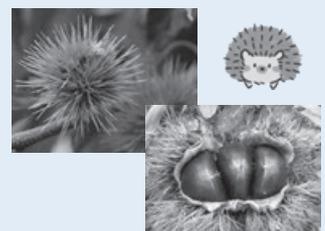
英語で
なんて言う?

今回は「かさま新栗まつり」を英語で覚えましょう!

ニュー チェスナット フェスティバル
Kasama New Chestnut Festival

New = 「新しい」、chestnut = 「栗」、festival = 「祭り」

日本では、「マロン」という言葉をよく使いますが、この言葉はフランス語からきていて、「marron」と書きます。



このページは、日本語を勉強中の方も楽しめるように、「やさしい日本語」を意識してつくっています。